

各委員から事前にいただいたご意見等について

※課題と感じられていることや、各団体での独自の取組の紹介などを寄せていただきました。

委員名	ご意見等
植山委員	<p><u>テーマ①「子育ても仕事もしやすい環境づくり」</u></p> <p>『ワークライフ・バランスの推進』 くるみんマークやしごと子育てサポート企業認定について、今回の資料で初めて知りました。</p> <p>産休や育児休暇、子どもの就学期間中においては、入学式・卒業式・運動会・PTAをはじめとする学校行事のために、母親が休暇あるいは時間休暇をとることは当然の権利だと思います。</p> <p>自分の職場では、私自身をはじめスタッフにも既婚者・子育て中あるいは子育て経験者が多いため、お互いが「お互いさま」という考え方でサポートしあっています。</p> <p>職員の意識を高める工夫が大事だと思いますが、「お互いさま」ですまない企業については、その仕事の穴埋めをしてくれる派遣スタッフを利用し、その利用分に対して、公的扶助を申請できるシステムがあれば良いかもしれません。</p> <p><u>テーマ②「結婚・妊娠・出産・育児の切れ目ない支援の推進」</u></p> <p>『結婚・妊娠・出産への支援』 結婚や男女交際について、興味を持たない若者が増えているように感じます。</p> <p>ひとつには、人権教育などで「生まない権利」や「生まない選択」などを主張しやすくなった時代背景があると思います。</p> <p>そのような考え方も価値観の一つではありますが、男女がペアでいることの楽しさや恋愛の素晴らしさ、家庭を築くことや子どもを育てることの感動、意義などを認識させるような教育も同様に必要だと思います。</p>
大塚委員	<p><u>テーマ①「子育ても仕事もしやすい環境づくり」</u></p> <p>『多様な働き方、地方自治体による試行』 妊娠・子育て（療育）・介護など家族のケアと、仕事を両立させ将来を保障するには、時短勤務や在宅をはじめとする事業場外労働など、多様な働き方が欠かせないと考えます。</p> <p>それなりの年齢の労働者が、育児や介護が原因で離職し、職歴に空白期間が生まれれば、好条件での再就職は困難な現状です。</p> <p>また、広まっていない新制度（多様な働き方）を検証し、磨き上げていく作業には、地方自治体にも積極的に挑戦してもらいたいです。県内企業が独自に取り組むにはリスクが大きい制度設計こそ、基礎研究を行う大学のように、自治体が</p>

委員名	ご意見等
大塚委員	<p>積極的に試行してみることを望んでいます。</p> <p>テーマ②「結婚・妊娠・出産・育児の切れ目のない支援の推進」</p> <p>『県内高校生・大学生など若年層への啓発強化』</p> <p>「妊娠・出産に適した期間が、女性にはあること」、「その期間は男性に比べてとても短いこと」などの女性の体にはシビアなリミットがあることを、具体的なデータや体験、病の例を示し、若年層へ伝えてほしいと熱望します。</p> <p>男女の区別なく教育が施され、男女が同じ土俵でキャリアデザインをする現代において、「結婚・妊娠・出産」は、女性の体に対してではなく、労働者のキャリアビジョンの中でスケジューリングされています。</p> <p>「20代の頃はがむしゃらに働いて、30代になった頃に所帯を持って落ち着いて…」という「男性的な」キャリアデザインが、「子どもを産む気がある女性」ととっても王道になったら、と強い危機感を覚えています。</p> <p>「結婚適齢期」「イキオクレ」など脅迫めいた言葉で女性を結婚に駆り立てていた時代は不要な知識だったかもしれませんが、けれど、「結婚適齢期」という言葉の裏にあった30代になると子どもができにくくなっていくという経験知は、初婚・初産年齢の上昇や高齢出産した方のニュースなどに紛れ、若年層へ伝わる機会が激減しています。</p> <p>一時期、「卵子の老化」が騒がれた時期がありましたが、老化するのは卵子だけではなく、子宮も、母体も、育児の際の戦力になる父親も祖父母も老化し弱っていきます。私自身、30代になると子宮内膜症や子宮筋腫による不妊が増え、35歳を過ぎると良好な状態の卵子の採取が難しくなり、体外受精の妊娠率すら目に見えて減少する、といったデータは、30代になってから知りました。</p> <p>不勉強を悔やむ人間が減るよう、若年層への啓発強化を望みます。</p>

委員名	ご意見等
大鶴委員	<p>テーマ①「子育ても仕事もしやすい環境づくり」</p> <p>女性が子育てをしながら仕事を始めたときに、最初にぶつかる壁は、子どもが病気になったときです。</p> <p>予期せぬ発熱や体調不良での、保育園からの急な呼び出しや体調が回復するまでの間の登園できない時期、子どもの心配と一緒に母親の頭に浮かぶのは「仕事に行けるかな?」「休めるかな?」「迷惑をかけてしまう」という職場への不安です。</p> <p>参考資料を拝見して女性が仕事を始めるまでの就労支援や、男性の育児参画、労働時間や柔軟な勤務体制など子どもが託児や保育所の利用をできている場合を想定しての取組については充実していると感じましたが、保育園等が利用できない場合も想定した、病児保育等の充実にも今後の取組を期待しています。</p> <p>現状では、県内の病児保育施設の充実には地域差があり、また、預かってもらえる年齢も制限があります。「病気の子どもが元気になるまで看たい、そばにいたい」と思いながらも、仕事をせざるを得ない親たちが安心して預けられる環境が整うことを望みます。</p>
佐藤晋治 委員	<p>テーマ①「子育ても仕事もしやすい環境づくり」</p> <p>『臨床心理士の子育てを支援する』</p> <p>大分県臨床心理士会子育て・発達支援部門では、従来、臨床心理士が子育て等における心理的支援が必要な者への支援を行う際の力量向上のための研修等を企画してきた。</p> <p>しかし、昨年度はまさに子育てまっただ中の臨床心理士が孤立しないで職能集団に参加できることを目的とした集いを行った。このことにより、職能集団への参加だけでなく、仕事に関する情報交換の場、自身の子育てに関する情報交換の場として機能したようである。</p>
西村委員	<p>テーマ①「子育ても仕事もしやすい環境づくり」</p> <p>『周囲の協力が不可欠』</p> <p>【感じていること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育てに係るコスト（生活用品・衣服雑貨・食事・保育・預貯金・保険等） ・育児の心身負担感 ・共働き家庭の子育て ・周囲の人（親族等）の協力の有難さ <p>～コメント～</p> <p>子どもができると家族が一人増えるため、子育てにかかるコストについてはも</p>

委員名	ご意見等
西村委員	<p>ちろん感じますが、子どもが小さいときはコストよりも心身負担感の方が大きく感じるのかと思います。</p> <p>そんな中で周囲の人の協力は本当にありがたいと感じています。例えば、トイレに行くとき・お風呂に入るとき等少しの時間でも子どもを見てくれる周囲の協力していただけるだけで大変助かります。</p> <p>【取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大分県社会福祉協議会では、今年度から子ども食堂・フードバンクの事業を行っています。 <p><u>テーマ②「結婚・妊娠・出産・育児の切れ目のない支援の推進」</u></p> <p>【感じていること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・結婚できる環境づくりの重要性 <p>～コメント～</p> <p>結婚・育児をすることはメリット・デメリットとは別の次元にあり、強制することでもなく、人それぞれ自由であると感じています。</p> <p>必要なのは結婚したいと思ったときに、それができる環境がそこにあることだと思っています。子どもの貧困対策のときに話し合われた内容とかぶるのですが、多機関協働で子育て支援を行うことが重要です。</p> <p>行政ができること、民間ができること、地域住民ができること、親族ができることが違いますし、テーマ団体によってもできることは変わってきます。</p> <p>現在の大分県ように、行政が音頭をとって多機関を巻き込みながら、結婚・育児環境の体制整備を行うのは建設的な姿だと感じています。</p>
橋本委員	<p><u>テーマ①「子育ても仕事もしやすい環境づくり」</u></p> <p>『「心配ご無用！」と言える大分県を目指します。』</p> <p>仕事を持っている人が出産を控えて持つ不安は、以下のことがあります。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①育児休業終了後、保育園に入れるか？ ②保育料は、いくらなのか？ ③小学校の下校時間は17時より前なので、どこに子どもを預ければいいのか？ <p><u>テーマ②「結婚・妊娠・出産・育児の切れ目のない支援の推進」</u></p> <p>『心身ともに健やかに！』</p>

委員名	ご意見等
藤原剛 委員	<p>テーマ①「子育ても仕事もしやすい環境づくり」</p> <p>『女性の就労支援について』</p> <p>女性のフルタイム就労について、周囲と話すとき出てくるのが「女性はすぐ結婚、出産して辞めてしまうのではないか？」という意見です。「すぐ辞めてしまうのでは」という不安が採用に影響しているのではと思います。</p> <p>なぜ不安なのか？採用面接時に女性本人が「結婚、出産しても仕事を続けます」と言っても、それを確実に実現出来る子育て環境がない(保育園不足等)為だと思います。</p> <p>その不安を払拭する為に、企業に対して子育て環境整備の取り組みについて説明してはどうでしょうか？企業が安心して女性を雇う事が出来、女性の就労率が挙がると思います。</p> <p>『若者の就労支援について』</p> <p>読売中高生新聞（6月17日付）の18000人の中高生アンケート（残念ながら大分の学校は入っていませんが）で、”興味・関心のある政治課題”アンケートで、女子の2位に「女性の社会進出」、6位に「少子化対策」が入っています。</p> <p>高校3年生全体では3位に「少子化」、5位に「女性の社会進出」、6位に「若者の雇用」が入っています。これらの項目について現役の中高生は自分達の事として非常に気にしていることが伺えます。</p> <p>細かい内容としては、「結婚・出産をしても仕事を続けたいので、働きやすい職場を増やしてほしい」、「女性は昇進しにくい状況があるのでは。自分が大人になった時が心配」等がありました。「興味がある＝不安」ではないかと思います。新聞・TVで就職の負の部分(低賃金、ブラック企業等)が大きく伝えられている為だと思います（本当のことなので仕方がないのですが）。</p> <p>不安を取り除く為に中高校生に「おおい子ども・子育て応援プラン」の説明をしてはどうでしょうか？「君たちの未来の為にこんな取り組みをしている」ことを知ってもらうことで、少しは未来に希望を持たせることが出来るのではないのでしょうか。</p> <p>合わせて上記と同様のアンケートを実施してはどうでしょうか？ 当事者の思いをプランに取り入れることは、独りよがりのプランにならない様にする為の一つの手立てだと思います。</p>

委員名	ご意見等
<p>正本委員</p>	<p>テーマ①「子育ても仕事もしやすい環境づくり」</p> <p>『県と市町村との連携』</p> <p>平成27年度より、子ども子育て支援新制度がスタートし、多様な子育て支援の取組みが、市町村を窓口として始まりました。</p> <p>県の事業計画や子育て状況を確認するために県民会議を行っていますが、市町村でもこのような子育て会議が必要です。</p> <p>平成27年度では、子育て会議を行わなかった市町村もあるようです。</p> <p>せめて、「今年度の計画」、「状況確認」、「来年度の取組み」と年3回は、子育て会議を行うように市町村に指導していただき、子育て家庭の声や子どもの育ちの情報を集め、県と市町村の子育て事業計画が密に連携できるようにしていただきたい。</p>
<p>村田委員</p>	<p>テーマ①「子育ても仕事もしやすい環境づくり」</p> <p>『企業内保育のすすめ』</p> <p>行政内、企業内に保育所（時間外、休日対応含む）を設置し、安心して親が働くことのできる環境を作る。</p> <p>放課後や休日など子どもたちが安心してすごせる居場所づくり。</p> <p>テーマ②「結婚・妊娠・出産・育児の切れ目ない支援の推進」</p> <p>子ども包括支援センターを設置し、子育ての不安、困りなどの対応を行う。行政と民間が連携するシステムづくりを構築する。</p>